

エゾシカとの共存を求めて

1990年代から爆発的に増え始めたエゾシカは、森林や草地にある特定の植物を食べ尽くし、小動物や昆虫が生息する環境を歪めてしまいました。そして、餌を求めて人の生活圏まで入り込んできてしまったのです。

その結果、道東地方を中心に農林業被害をもたらし、被害額は59億円(2011年現在)を越え、年々深刻さを増しています。さらに交通事故や鉄道事故も誘発しており、近年ではエゾシカとの衝突による死亡事故さえ発生しています。もはや、一般的な視点でマイナス資源と見られてしまうことは当然のことなのかもしれません。

しかし、ただマイナス資源として駆除してしまうだけでいいのでしょうか。本来、エゾシカは北海道固有の魅力的な天然資源なのです。

今後、エゾシカをプラス資源として活用することが求められます。北海道森林管理局は、人とエゾシカが共存するための新しい関係を築くことを目指しています。



林野庁 北海道森林管理局

(問い合わせ先:保全調整課)

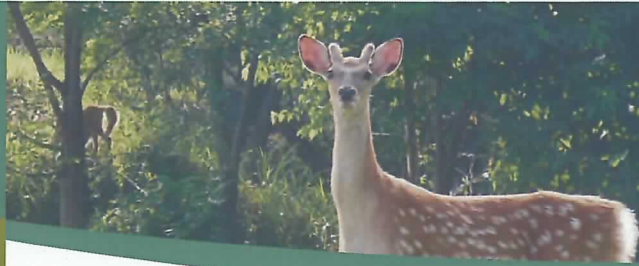
〒064-8537 札幌市中央区宮の森3条7丁目70番

TEL 050-3160-6274

<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>



国有林における エゾシカの 被害と対策



1 エゾシカの生態

エゾシカについて…

エゾシカは、オスの場合、最大で体重150kg・体長190cmに達する国内最大の草食動物です。寿命は概ね14～20年。北海道全域に広く分布していますが、その大半は日高・十勝・釧路・根室・網走の各地域を中心に、道東から道北に生息しています。

メスは家族群で、オスは単独で生息し、繁殖期に入るとハーレム(一夫多妻の群れ)をつくります。メスは早ければ満1歳で交尾・繁殖が可能となり、大型獣としては個体群の増加率が上がっていることも特徴のひとつといえるでしょう。

主に生息しているのは森林地帯ですが、その個体数の増加に伴い農林業被害や交通事故が多発し、問題となっています。

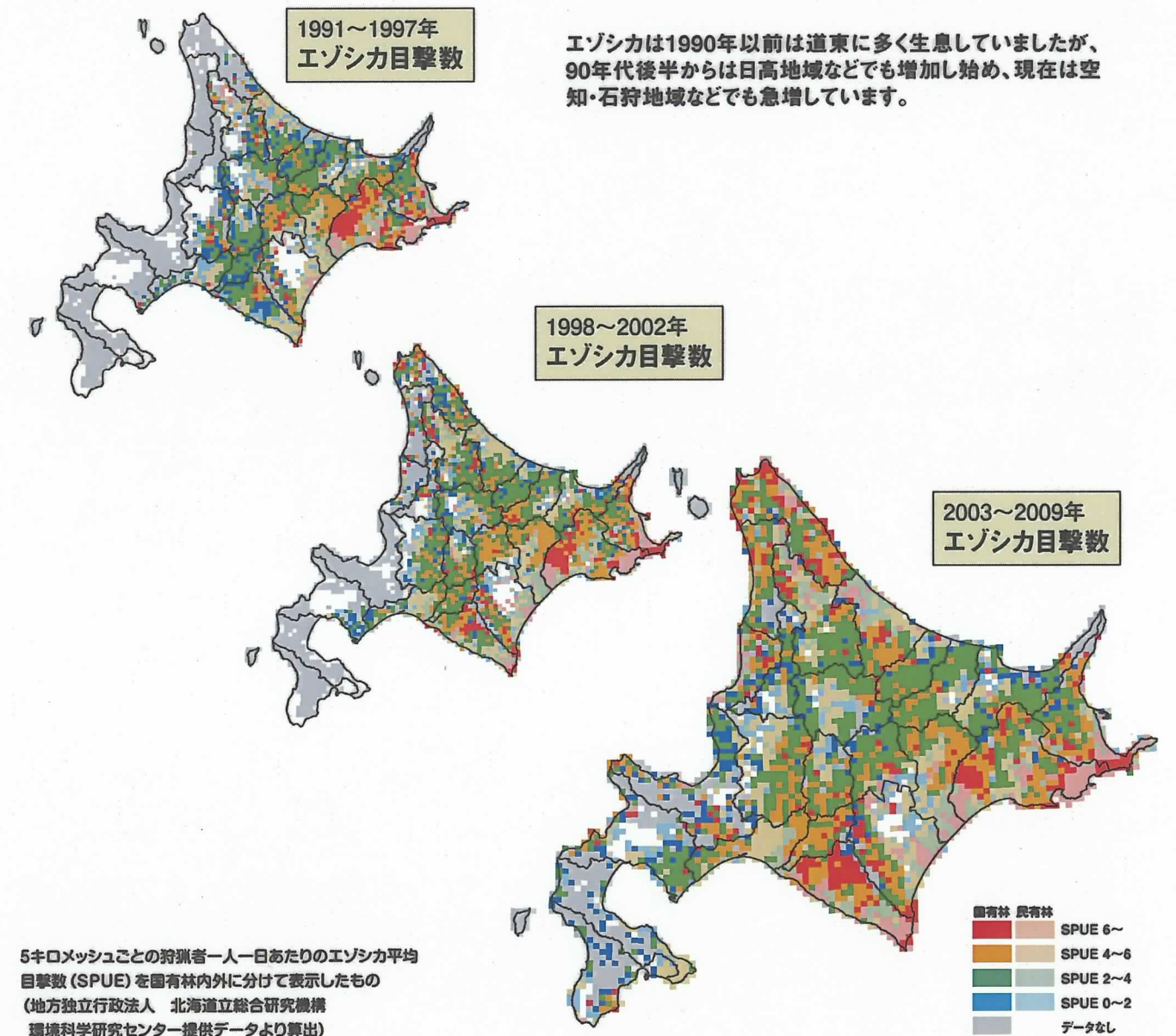
このように広く分布した要因は、放棄農地や牧草地や、越冬に適した常緑針葉樹林などが増加していることが挙げられます。

- 春** 4月頃、体の大きなオスから順に枯れ角が落ちはじめ、新しい袋角が生えはじめます。また、5～6月には鹿の子模様の夏毛に生え換わり、6月に出産期を迎えます。
- 夏** 生息範囲が広域に分散し、高山地帯でも見られるようになりました。また、人間の生活圏にも出没し、林道沿いなどで親子連れを見ることも稀ではありません。
- 秋** 9月、オスの角が「枯れ角」と呼ばれる状態になり、この頃からマーキングと考えられる樹木への角擦りが増えはじめます。10月以降、冬毛へ生え換わり、繁殖期に入ります。
- 冬** 雪深い環境は、移動や採餌が困難であるため、極力積雪の少ない山の南斜面に移動し、常緑針葉樹林下等で集団で越冬します。この間、体力のない仔鹿などが命を落としてしまうことがあります。

2 エゾシカの分布と変化

絶滅の危機から爆発的な増加へ

エゾシカは、かつて明治期に絶滅の危機に瀕し、捕獲が禁止されていました。その後、狩猟の解禁・禁止を経て、現在では約65万頭(2011年現在)が生息しているとされています。その数は爆発的に増加を続けており、下図のように1990年以前は道東中心だった生息地域が、90年代後半から日高地方などで増加をはじめ、現在は全道に広がっています。



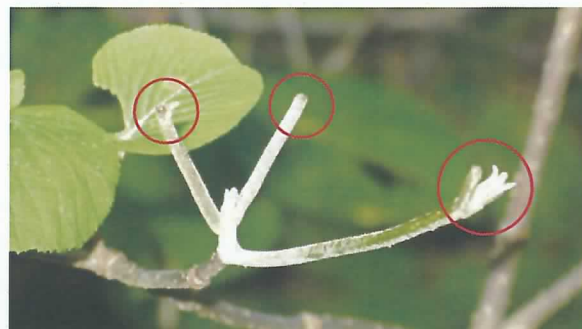
3 エゾシカの痕跡

食痕／樹皮剥ぎ／角こすり

樹皮剥ぎや角こすりにより樹木が枯死するおそれがあります。



〈樹皮剥ぎ〉



〈食痕〉

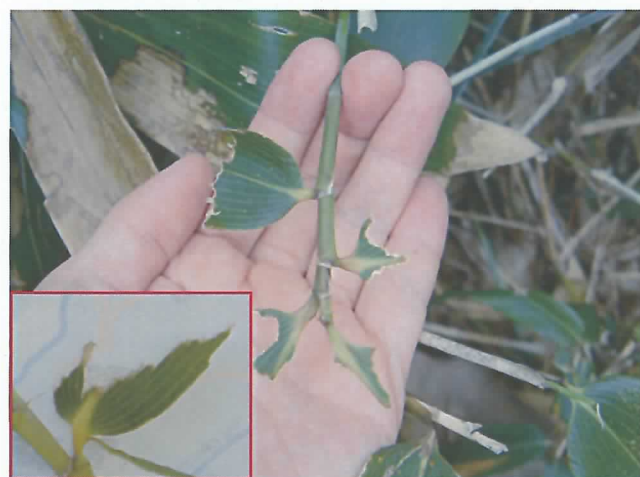


〈角こすり〉

下層植生の痕跡



〈ササの葉が食べ尽くされてほうき状になったササ〉



〈上あごに前歯がないので、引きちぎられたようになる〉

4 エゾシカの食べ物、森林との関わり

エゾシカは、森林地帯に生息しており、そこに生える植物を食べるということは自然なことでしょう。もちろん、ほとんどの植物を食べますが、エゾシカには人間と同様に「好み」があるのです。

例えば、高木ではニレ類やイチイ、低木ではノリウツギやタラノキを好んで食べます。その反面、イチイ以外の常緑針葉樹や有毒植物、シダ類などはあまり食べません。

そのため、エゾシカの数が多くなってくると森林への影響が懸念されます。特に越冬地の周辺では顕著で、好みの植物が食べ尽くされ、好みではない植物(不嗜好植物)が著しく繁茂し、植生そのものに影響を与えています。

その他にも次世代を担う稚樹が少なくなることによる森林への長期的な影響、特定の植物に依存する昆虫への影響など様々な強い影響力を持っています。

代表的な不嗜好植物



〈フッキソウ〉



〈ハンゴンソウ〉

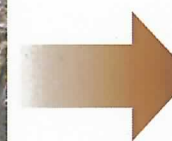


〈シラネワラビ〉

好みの植物が食べ尽くされた結果



〈平成10年9月〉



〈平成23年11月〉

5 エゾシカが森林に与える影響調査

調査の目的

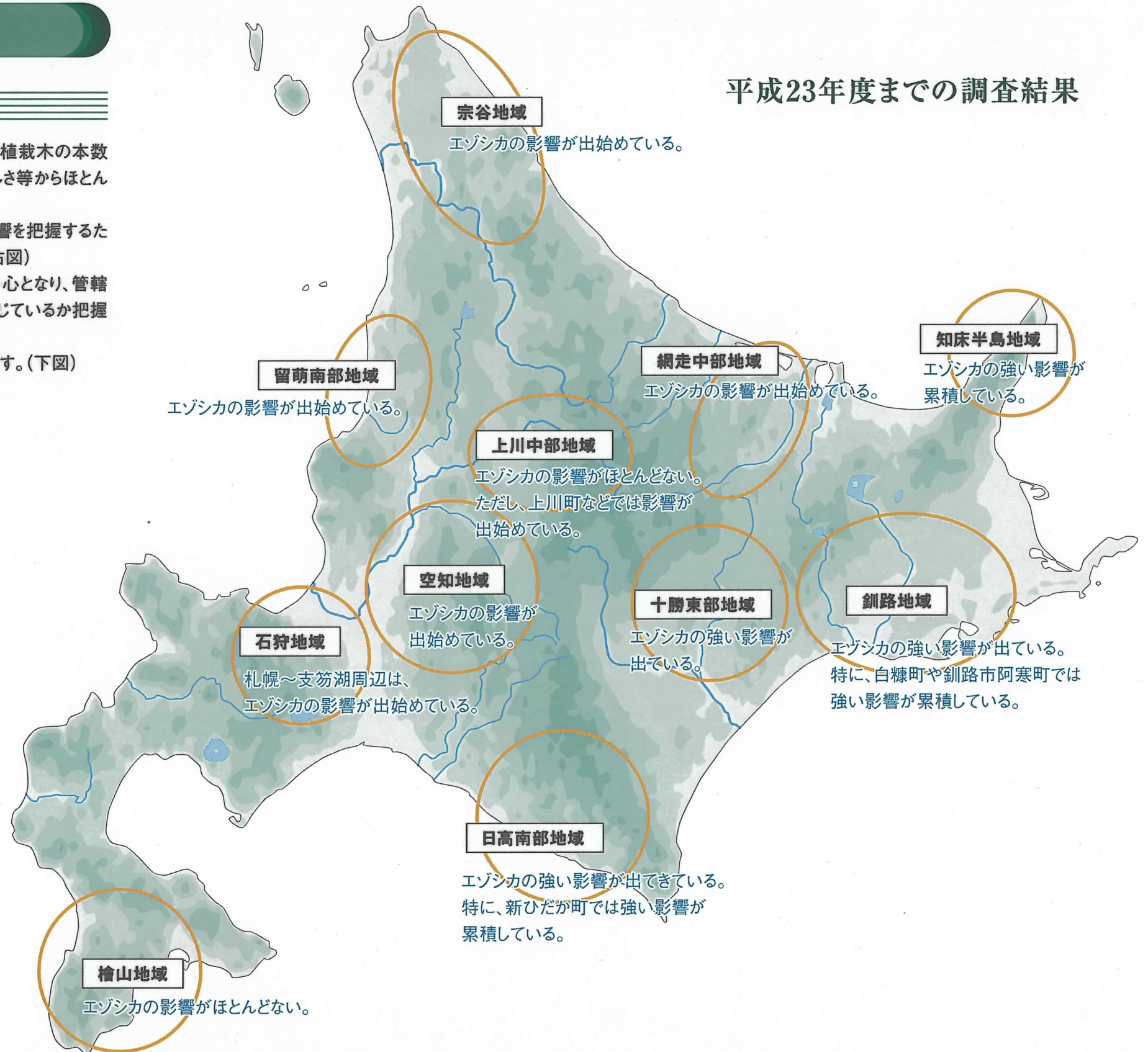
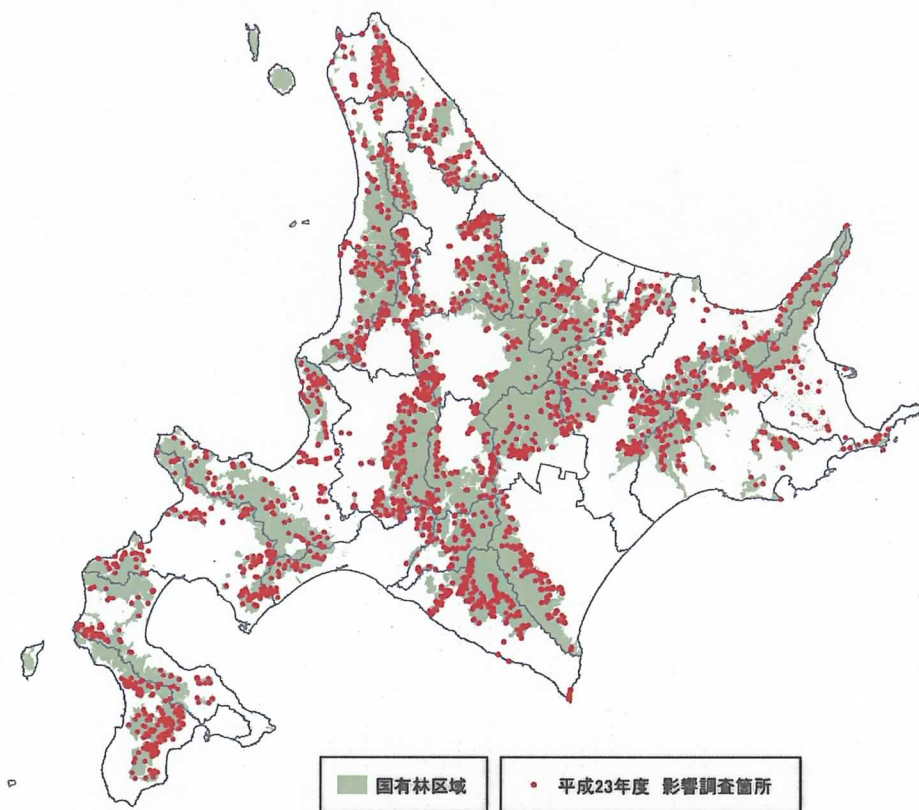
エゾシカによる農林業被害額が再び増加しているなか、人工林においては枯損した植栽木の本数等で被害状況を明らかにすることができますが、天然林における被害はその把握の難しさ等からほとんど明らかにされていない状況にあります。

そこで、北海道森林管理局では、平成21年度よりエゾシカが天然林に与えている影響を把握するために195箇所のモニタリング地点を設け、詳細な調査を全道規模で実施しています。(右図)

これに加えて、平成22年度、道内各地にある森林事務所配属された森林官が中心となり、管轄する森林3,288箇所(天然林1,054箇所、人工林2,234箇所)にどのような影響が生じているか把握するための簡易な調査を実施しました。

平成23年度は、5,014箇所(天然林1,677箇所、人工林3,337箇所)実施しています。(下図)

この調査は今後も実施していきます。



6 囲いワナによるエゾシカの生体捕獲

北海道森林管理局による囲いワナ

エゾシカの生息密度が高いといわれている白糠町内の国有林において、個体数調整を目的としてエゾシカの捕獲を実施しました。

捕獲の際は、エゾシカを単なる「害獣」としてではなく「持続可能な自然資源」としてとらえ、囲いワナを利用した生体捕獲により、食肉等としての有効活用を目指しました。

期 間：平成21年12月～平成23年3月(捕獲頭数55頭)

場 所：白糠町上茶路(根釧西部森林管理署管内)

取組内容：周囲の一般猟区から鳥獣保護区に集まるエゾシカの捕獲を実施

希少猛禽類に配慮してワナの設置位置を検討

平成23年度は釧路市阿寒町で実施します。



〈囲いワナ〉



〈捕獲されたシカ〉

地域連携による囲いワナ

新たな効率的な捕獲技術をめざし、簡易で移動可能な囲いワナの開発を行うため、三者協定(十勝西部森林管理署東大雪支署、新得町、農業生産法人)による生体捕獲を実施しています。

また、生体捕獲した個体を食肉として有効活用するため、地元市町村や食肉加工業者等との連絡調整体制を図っています。

平成23年4月～12月末までに67頭捕獲。



〈囲いワナ内部にエゾシカ2頭〉



〈追い込み作業〉

7 関係機関と連携した捕獲

除雪による捕獲の効率化

平成22年度、市町村等が行うエゾシカ有害駆除や一般可猟区の一部について、捕獲をしやすくするため11森林管理署22市町村で累計約1,000km林道の除雪を実施しました。この結果、約1,000頭捕獲することができました。

平成23年度も各市町村等の要望に基づき、林道の除雪を実施します。

釧路総合振興局(旧釧路支庁)が平成21、22年度に実施したエゾシカ個体数減少に向けたボランティアハンター事業を支援するため、釧路市阿寒町内の林道を除雪しました。平成23年度は釧路市と連携し、釧路市阿寒町内の国有林林道を除雪します。



〈狙いを定めるボランティアハンター〉

平成21・22年度

ボランティアハンターによる捕獲数 557頭 ・延べ人数 566人・日(1人あたり約0.98頭を捕獲)

自衛隊の協力によるエゾシカ捕獲事業

北海道、白糠町、陸上自衛隊北部方面隊、北海道森林管理局の4者が連携して、平成23年2月8日～10日、白糠町右股地区でエゾシカ捕獲事業を行いました。

白糠町の林道除雪を実施し、3日間で28頭捕獲することができました。

平成23年度は白糠町、遠軽町の国有林で実施する予定です。



〈エゾシカ捕獲打合せ〉



〈上空から見たエゾシカの群れ〉

8 その他のエゾシカ対策

エゾシカシンポジウムの開催

平成22年10月、札幌市男女共同参画センターにおいて、人とエゾシカが共存する方策を探ることを目的とした「エゾシカシンポジウム」を開催し、北海道森林管理局におけるエゾシカ対策等の紹介、東京農工大学大学院教授梶光一氏による「エゾシカとの共存を考える」と題した基調講演や関係者によるパネルディスカッション、高タンパク低脂肪という栄養学的特徴があるエゾシカ肉の試食会を行いました。

主催：北海道森林管理局

後援：環境省北海道地方環境事務所、北海道、(社)北海道猟友会、(社)エゾシカ協会
東京農業大学



〈シンポジウムの様子〉



〈シカ肉の試食会〉

防鹿柵、シカ防護用ネットの設置

エゾシカの食害等を防ぐため、防鹿柵やシカ防護用ネットを設置しています。

- ・防 鹿 柵：網走南部森林管理署(カシワ林の防鹿柵)
- ・防護用ネット：根釧東部森林管理署(イチイ純林保護林の防護用ネット)



〈知床世界遺産地域にあるカシワ林の防鹿柵〉



〈小学生もネット張りに参加〉

狩猟巡視員の配置

平成22年度は13森林管理署において、狩猟監視と残滓の適正処理等ハンターのマナー向上のための普及啓発を実施しました。

平成23年度は15森林管理署で実施中です。

